

『会心の“試合運び”』はいつ訪れる……？ 岐阜2-倅津【第10節】

試合終了と同時に天を仰いでため息をつく僕。
この一文だけ見たら負けのように映るけど2 - 1の勝ち。けどロスタイムに入ってから失点、そこからの草津の猛攻によるドタバタ。極めてブサイクとしか言いようがない試合の締め方は「まだ大人になってねえよ……このチーム……」と先行き不安になってしまう代物でした。
とは言ったものの、この状況を招いた主犯は倉田監督だと僕は考えてます。2 - 0として終盤を迎え、2 - 0でOKなのか3点目を狙いに行くのかの指針がぶれてしまったことが理由です。足を撃った永芳に替えて川島投入。これで中盤底にCB 2枚で蓋をして守りぬけ！ = 2 - 0でOK! のはずが、時間稼ぎなのかガス欠だったのかわかんないけど佐藤から染矢。あれ？3点目狙うの？と僕の周りも？って空気になって、染矢は見せ場を作ってくれたけど先述の通りそこからドタバタになってしまった。
もし時間を稼いで守りぬけ！なら野本なり山内なり選択肢はあったはずだ。それが交代は2枚で終了かのいずれかだ。最後の最後に恭平がラフィーニャのドフリーをかるうじて手に当ててくれた最悪の結果だけは免れたが、それまでの2点を帳消しにしかないあのクロージングの仕方は最悪だった。この悪癖を修正しない限りは本当の意味で大人のサッカーになったとは到底言えない。この試合は2 - 0で終わらせなければいけない試合だった。
試合後の感想戦で「3点目を狙いに行ったら結果失敗」ならまだ仕方ないけどアレはねえ……って僕以外にも同じような感想を持ったサボも居たことは書き記しておく。選手も監督も成長途上。けど成長（結果だけに非ず）を見せてくれないとサボは納得してくれませんよ。（ジュニア）
日中の気温が20を超え、初夏を思わせるかのような陽気の中での試合。2週間ぶりのメドウのピッチが多少見映えがよくなったのかなと感じたのは気のせいかな（笑）。試合はというと、岐阜は比較的縦に早く蹴ってくるスタイル。メドウのピッチ状態を考えたらこの戦い方でいかなないと仕方ないかな。まあ中盤でボールを落ち着かせることが出来る選手がいれば多少は戦い方を変えることが出来るかもしれないのだが。
1点目の押谷のゴールは裏に抜けるボールにうまく反応した彼の得意な形だったと思う。2点目の秀人のゴール、あの位置から思い切って打った誰もが驚くロングシュート。スカパー！で、解説の森山氏がワールドクラスと絶賛するゴール。これも積極的にゴールを狙おうという姿勢がもたらしたものでしょう。終盤ドタバタしまい失点を許してしまったのはまだ若い証拠かな。ここを上手に纏め上げることができればさらにディフェンスも安定していくと思う。
ただ気になったのは、交代カードの切り方。永芳・川島の交代は永芳・山内のほうがよかったのではないかと。川島は普段あの位置で練習とかして対応は出来ているのかな？それと染矢の投入。その意図がいまいちわかりづらかったように思う。3点目を狙うつもりでの投入か、そうではないのか？2 - 0でゲームを終わらせるなら、押谷を1TOPにして野本投入もありだったのかなと考えたりもするのだが。
あと個人的に気になったこと。ヒーローインタビューが終わって押谷と秀人がバックスタンド側に挨拶に来てスタンド最前列の観客とずっと握手して回っていて、中にはサポーターに呼び止められて写真を撮ったりしていたこと。ファンサービスも大事だし、頭が下がる思いもあるが、早めに離脱してクールダウンさせてあげないと、カラダが冷えてコンディションに差し障るんじゃないかなって思った。変に気を回しすぎだと言われればそうかもしれないが。逆に言えば、メドウは観客と選手の距離が近いからこういうことも可能なのだが。もう少しチームもそこは選手に配慮してあげてほしいなと思う。（岐阜の誇り）

前半終了のホイッスルが鳴り響いたとき、何とも消化不良感が残った。互いにこれといった決定的チャンスを作れず、自分自身も、隣のサボと、「入るとしたらセットプレイからしかないか」と話していたところだった。
しかしここで倉田監督が動く。前半倒れるシーンもあった嶋田に代えて押谷を投入。「流れを変え」に掛かり、その采配は4分、押谷自身のゴールという形となって見事に的中する。興奮も冷めやらぬ中、その2分後、DF田中秀人が、30メートル以上はあろうかという強烈なロングシュートを草津ゴールに叩き込み、追加点を奪う。
しかし、後から考えれば、草津DFが「浮き足立っていた」この時間帯にとどめの3点目をとらなかった事が自らゲームを苦しめる原因となった。欧州では「2 - 0は最も危険なスコア」と言われる。リードした側には「慢心」が生まれ、1点でも返そうものなら追いつけた側の「勢い」というのは止められなくなる、というものだ。事実、3 - 2の逆転勝利はよく目にする。終盤まで何度かあったチャンスをモノにできず、相手のラフプレイにも苛立ち、冷静さを欠いていたように思う。（ベテランの秋田はさすがに老獪な守備を見せていたが…）。ロスタイムに1点を返され、その後攻め込まれたが、何とかしのぎきり、価値ある「勝ち点3」をゲットできたが、大いに課題の残るゲームだったといえよう。
次は首位・柏レイソルが相手。こういった「目に見えないミス」は命取りになりかねない。劣勢の時間帯が長いと思われるが、少ないチャンスをものにする、勝負強さを、発揮することを期待したい！！（長良高校卒FC岐阜サボ）
2度目のメドウ。芝は前回に比べると（まだまだ酷いんだけど）マシな状態に。試合も前回の東京V戦とは違い、勝利してくれることを信じて応援する。やはり、前回とは違う選手たち。勝ちたいという気迫が伝わってくる。そしてスタジアムの雰囲気も前回とは違う。ほぼ満員（後で聞いたところ、チケットは完売！）となった観客席は、キャパが小さくても、やはり迫力がある。前半はほぼ互角の状況だったが、後半開始早々、交代出場の押谷がカウンターの縦パス1本で抜け出してGKと1対1になり、先制点！沸き立つスタジアム。そして、その興奮が冷めないうちに、ボラン田中秀人が、世界レベルのぶれ球で、豪快なミドルシュートを決めてゴール！！田中選手が、自分でも驚いたかのように照れながら拳を突き上げてサポーターに駆け寄り、壊れるコアゾーン（笑）。直後に田中は仲間に揉みくちやにされて祝福され…誰かに投げ飛ばされてたような（苦笑）。
しかし、その後は草津に流れが行ってしまったように思う。粘り強く守り、我慢の時間を続けたが、ロスタイムに途中出場の敵FW氏原（岐阜VAMOS出身）が頭で逸らしたボールをフリーのラフィーニャに押し込まれ、失点。完全に息を吹き返した草津に更に攻め込まれるが、守りきって試合終了。何とかメドウで初勝利、勝ち点3を手に入れた。
正直、まだ課題は残っていると思ってしまった（もちろん、無失点で終われなかったことが一番の課題なのだが）。前回と同様、ピッチが堅くてボールが跳ねてしまうのか、ボールをコントロールしきれない様に感じる。そのため、プレーの速度が遅くなったり、パスの精度が悪くなったり、前を向いたプレーができなかったり、なかなかシュートを撃てなくなっている様な気がする。また、トップの洗いにボールが収まらない。今年の活躍で研究されているのか、あるいは彼自身が本調子ではないのか。しかし、昨季も活躍しただのは確か6/30第10節・水戸戦ごろからだったから、今後に期待したいと思う。
ともあれ、やはり勝利は格別だ。しかも、こんなに選手と距離が近いスタジアムなら、その喜びはなおさらだ。録画を見てわかったが、押谷&田中の両選手はヒーローインタビューを受けた後、疲れているハズなのに、ぐるりと回って握手などファンサービスをしていた。メモリアルでも行われていたが、その距離感は比べるまでもない。これで、芝の状態がもっと良くて、観客席が数倍あって、オーロラビジョンが付いたりしたら、ずっとメドウでいいかなあ…（苦笑）。（ささたく）

この日もグリーンズに参加して、あっちこっち歩き回って
いました。だから押谷選手の落ち着いた技有りシュートも田
中選手の豪快なミドルシュートも、リアルでは見ていません
(涙)。でも良いものね！その時のスタジアムの盛り上がり
を体験する事が出来たから！（嬉）これからもホームで毎試
合この盛り上がり体験していきましょう！！（シュナ）

ウチの右サイドの深いところからクロスを入れられて、ゴ
ール前の混戦から失点。メドウを包む大きなため息。「あ～、
またロスタイムの失点かよ～」という声も近くから聞こえた。
けれど、ぼくには何故か確信に近い予感があった。このまま
では終わらない……。そして、その予感はやっぱり的中して
しまった。最後のラフィーニャのヘッドがゴールインしなかつ
たのは、まさに僥倖としか言いようがない。試合終了の笛
とともにメインスタンドは歓喜に包まれた。でも、ぼくはど
うしても拍手をする気分になれなかった。

「サッカーは2点差が危険」とはよく言われるのだけれど、
それは「2点のリードを1点差にされたら危険」という意味
で、別に『2点差が危険』なわけではない。もし1点差より
2点差の方が危険なら、リードしたら2点目を狙わなければ
よいのだ。で、この試合は間違いなく2点差で終えなければ
いけない試合、そして2点差で終えることの出来る試合だつ
た。ロスタイムでの失点そのものについて文句を言うつもり
はまったくない。ぼくが気になるのは、失点の原因を岐阜隊
のベンチワークが作り出したように思えてならないことだ。
選手起用は監督の専決事項。だから、その用兵に是非を突き
つけるつもりはない。けれど、やはりどうしても理解出来な
い。なぜ、あの局面で染矢だったのだろうか。

当たり前だけど、サッカーという競技に「タイムアウト」は
ない。戦術変更は選手交代と一緒に発生させるのが高効率。
だから、選手交代には、それがアクシデントによるものだと
しても、そこには『メッセージ』が存在する、とぼくは思っ
ている。

現地では気づかなかつたけど、永芳は脚を攀っての交代だつ
たらしい。でも、攻撃的左サイドを下げ、選手のポジション
を変えて、交代選手（川島）を中盤の底に入れる。そこには
「キッチリ2 - 0で試合を終わらせる」という『メッセージ』
が込められているはずで、そうするとその後の染矢投入の理
由を理解するのが困難になる。彼は局面の膠着（2 - 0でリ
ードしているのだ）を求められる選手ではない、とぼくは思
っていたのだけど、「そうではない」ということなのか。
たしかに、投入後の最初のチャンスで染矢が振り抜いた左足、
あれがネットを内側から揺らしていたら、監督が開幕戦のイン
タビューで観客に胸を張ったように「作戦勝ちです」とい
うことになったのかもしれない。でも、あの場面は果たして
「（得点を）取るか取られるか」の“丁半バクチ”を打つべ
き状況だったのだろうか。倉田監督は、川島と染矢にどうい
う指示を出してピッチに送り込んだのか。もし、自分で訊く
機会があったら是非ともお伺いしたい点だ。

もう一つ、この試合では洗一の状態の悪さが気になった。ど
うしても一歩めが遅い。大きなクロスが入って押谷がヘッド
で折り返したシーンが印象的で、好調時の洗一なら、アレは
クロスがファーにいる押谷で行った瞬間に「折り返しが来る」
と狙っていたように思えてならないのだけど、洗一は動き出
すことすら出来なかった。

GW5連戦も今日で最後。これまでの4試合で、18人の選手
がスタメンあるいはベンチ入りをしている。そして、スタメン
に変更があったのは4試合目、前節・徳島戦で正吾の代わり
に押谷が起用されただけ。まるで、ウチには他に選手がい
ないかのようだ。

選手だって好不調はある。当然だ。でも、スタメンあるいは
ベンチ入り可能と監督やコーチ陣が判断出来る選手が上記の
18人しかいないのだとしたら、遠征等に参加しない、いわゆ
る“居残り組”のコンディションを上げ、ベンチ入り出来る
だけの状態に上げていくのは、誰の仕事なのだろう。このま
まの起用法だと、いずれは「スタメン全員が同じようにコン
ディションを悪化させ、そして全員が同時にパンクする」と
いう最悪の事態だって想定出来るのだ。（吉田 鑄造）

選手が引き上げたあと、タオマフを掲げ、『勝利の賛歌』
を高らかに歌い上げるのは本当に気持ちいい！東京V戦では
まとまらなかったコールやチャントも、今節ではバクスタ岐
阜サポエリアにコール・リーダーの補佐役が配置され、一体
感を伴ったサポートができたように思う。前回、スローイン
やCKに來た相手へのブーイングやヤジに向けたパワーが、
今節は岐阜の選手たちへの鼓舞、後押しに変わり、メドウで
のJ初勝利をつかむことができた。疑いもなく、そう思う。
もちろん、選手たちのガンバリは言うまでもない。東京V戦
の苦い経験を生かし、永芳のミドルのように前半から積極的
にゴールを狙う姿勢を見せてくれたし、縦ポンー一辺倒だつ
た攻撃からパスをつなごうという意図を感じさせてくれた。そ
のパスをつなぐという姿勢が草津のギャップを作り、キャプ
テンの裏をつく縦パスから押谷の先制点が生まれたと言える。
そして、草津に息つく暇すら与えない秀人の鮮やかすぎる超
絶ミドル。ゴール裏ピッチサイド・スタンドのお客さんが、
一斉に両手を突き上げて立ち上がる姿は、録画を何度繰り返
し見ても感動を禁じ得ない。もちろん、それはメインもバク
スタでも同じような情景があった。一つのゴール、一つの勝
利が、こんなにも痺れるような歓喜をもたらす。勝利の後は
この日の押谷や秀人のように、選手と同じ目線で触れ合うこ
とができるのだ。これがメドウの魅力、素晴らしさ。この喜
びをずっと味わいたい。ホームゲームは負けられないね！

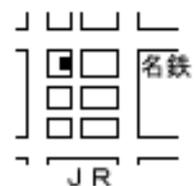
と、書いてみたものの、自分の中で、心底勝利に酔いしれる
ことができない疑問が一つある。なぜ、あの局面で染矢なの
か？2点差の終盤。川島を投入することで「守り切る」と意
志統一したんじゃないか？確かに、得点を狙って草津
は前掛かりになるだろう。その裏をついて、染矢のカウンタ
ーという意図もわからないではない。そして、この交代が決
定機を演出したのも事実。しかし、カウンターも染矢一人で
はできない。ボールを奪った瞬間に、攻撃にシフトチェンジ
する意識が必要だ。1点差ではなく2点差。しかも、一度は
「このまま、守り切れ」という戦略を示した後だ。川島投入
から変わりが無いその状況を、自ら変える必要が果たしてあ
ったのだろうか？染矢の投入は、ピッチにいた選手たちに疑
問を生じさせたのではないか？その疑念、不安がアディショ
ナル・タイムの失点と防戦をもたらしたのではないのか？
サッカーは言うまでもなく、得点差で勝敗を決めるゲーム。
一点多ければ勝ちなのだ。2点差を守り切れない者に1点差
は守り切れるだろうか？サッカーに、野球やラグビー、バス
ケットのような一発逆転はない。だから、2点差よりは3点
差。少しでも楽になりたいがための、あの交代…。それが、
ただの杞憂であることを祈るばかりだ。（くん、）

ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心、癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目（木ノ本公園東）

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅
から徒歩3分。
休：日曜日
（今日はお休みです）



長良川球技 メドウを10倍楽しむ方法

みんなの手拍子で



選手に力を!

～ご協力お願いします～

タオル大作戦!



選手入場時 ... 高く掲げよう
ゴールチャンス ... 大きく振り回そう

ここ長良川球技メドウでは、太鼓などの鳴り物を使った応援ができません。しかし、選手の息づかいが聞こえそうなほどグラウンドまでの距離が近く、目の前で繰り広げられる真剣勝負にきっと気持ちは高まるはず。ウズウズしてきたら「手拍子」や「タオルマフ」(タオルマフラー)で選手を勇気づけましょう。たとえひとりのアクションは小さくても、隣の人と、前後の人と、みんなでいっしょに応援すれば、大きな力になって、選手だけでなくあなたのハートもさらに熱くさせること間違いなし。「メドウ劇場」では、観客のあなたも大切なキャストなのです。

1人でも多くの方に楽しんでいただくために

席をつめてお座りください



↑ 荷物は足元をご利用ください

通路での観戦は ご遠慮ください



小さなスタジアムなので、席もスペースも限られています。みんなが気持ちよい時間を過ごせるように、ひとりひとりがマナーを守って観戦してください。



岐大通 2010

today's guest

柏レイソル

2009 J1 第16位

J2通算対戦成績: 初対戦

2010J2 順位表 第1節

(※消化試合が1多い)

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1	柏	24p	+10	14	4
#2	千葉	23p	+12	22	10 A
3	甲府	20p	+8	20	12 H
4	徳島	19p	+5	18	13 A
5	大分	16p	+3	16	13 A
6	鳥栖	16p	+1	9	8
#7	水戸	16p	-1	9	10
#8	熊本	16p	-4	11	15 A
9	愛媛	15p	+2	7	5
#10	岐阜	15p	-3	11	14 ---
11	栃木	14p	+4	12	8
12	福岡	13p	+9	19	10 A
#13	岡山	12p	-3	7	10
#14	横浜FC	12p	-5	15	20
15	札幌	10p	-7	7	14 H
16	東京V	09p	-1	9	10 H
#17	草津	08p	-8	8	16 H
#18	北九州	08p	-8	4	12 A
19	富山	07p	-14	9	23 H

次回 HomeGame

第1節

水戸ホーリーホック戦

5/22(土) 13:00

@長良川球技メドウ

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

F C 岐阜大好き通信(岐大通)

5/9号

編集発行: 『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく & 吉田醸造

編集子より

ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンは2年ぶりに「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしくお願致します。

いくらなんでも、ちょっとヤラれ過ぎ? 徳島 4-0 岐阜【第1節】

言い方は悪いですが、「情けない、上位にいるのはまだ早い」と思いました。先制されて持ちこたえられず4失点、連戦の疲れがあったり相手の勢いもあったと思いますが、先制されても集中をきらさず、引き分けに持ち込めないと昇格争いには絡めないと思います。(ブラウ@翠魂)

徳島戦の前半は結構チャンスもあったし、いけるかと思ったんですが、繋ぎのところでミスが出てなかなかシュートまでいけない。後半、徳島はサイドから仕掛けてきました。草津戦の終了間際の攻め込まれ方を見ていて、サイド攻撃を受けたときに守備がドタバタしてるなと思っていましたが、そのあたりを突かれました。特に後半だけで4失点というのはいただけません、選手もベンチも色々反省点があると思います。おっと愚痴っぽくなってしまいましたね。さて、しっかり対策を立てたら切り替えて柏戦です。J2首位のチームですから簡単にはいきませんが、われわれには失うものはありません。このメドウのピッチコンディションを味方に付けて一泡吹かせましょう(笑)。今年は収容人員の関係で長良川劇場でなく長良川小劇場でしょうか(爆)。

(世界のやまちゃん)

前半の戦いぶりから後半早々に先制を許した途端の内容の悪化には目を疑い、目を覆いたくなる代物でした。ここまで脆いメンタルだったかあ! ? とスカパー見ながら絶句してしまいました。認めたくないけど、2失点目喰らった辺りから画面を通して「諦め」が伝わってくるのを感じました。去年はそんなことなかったように記憶してたけどなあ……。

今の岐阜のサッカーは後手に回ると途端に約束事が曖昧になってきてます。昨日の前後断なんかその最たる物だったかと。申し訳ないけど、その前に生で見た「東海1部リーグ」の別のチームの試合でももう少しきちんとチームになってましたよ……。

今のサッカーの方向性だけでは限界があるような気がします。守備をベースにするにしたら、攻撃への切り替えの方策をどうにかしないと、ただ守って疲弊するだけのサッカーになってしまうような不安があります。

今日の相手、柏レイソルはリーグでは間違いなく最強でしょう。けれどここはホーム。一昨年のセレッソ戦みたいな思いはもうしたくありません。(ジュニア)

この日は二十四節季のうちの立夏。ポカスタに照りつける太陽は、その名に恥じない夏の日差しだったけれど、それでも明石海峡を渡る海風は心地よく、3連勝に向けての期待とともに黄金週間の最高の締めくくりを信じて疑わなかったんだけど……(苦笑)。それでも、少なくとも前半は決して悪い流れというか試合運びではなかったと思う。徳島はホントにホーム・チーム? と心配するような最終ラインでのパスを回すことが多く、左サイドの島田はともかく、右MFの倉貫はまったくと言っていいほど消えていたようにすら思えた。対照的にウチの選手は前節に続き、永芳は積極的にゴールを狙っていたし、野垣内もあわや、のシュートを放っていた。「怖いのは個人技を生かした攻撃だけ」、連敗もやむなしな徳島の現状を分析できたようなつもりでいたハーフタイム。まさか、後半早々から好調に見えたこちらの左サイドを崩されての4失点しようなどと夢にも思っちゃいなかったワケで……。

せっかく、上位へ食い込むチャンスだったが、昨季に引き続きこのスタジアムで苦い敗戦を味わうことになってしまった。与えられたFKは徳島より多かったが、それでもいささかナイーブな判定によってウチはリズムに乗り切れなかったような気がしないでもない。おまけに、中二日、中三日の連戦が続き、ほぼ固定されたスタメンはコンディショニング的に万全とはいえなかったのかもしれない。徳島も同じ日程とはいえ、千葉、北九州のアウェイ連戦、メドウをはさんでのアウェイ徳島は体力的にもキツかったはず。しかし、だからこそ意地でも勝ってほしかった。

この借りはメドウで返そう。今季めざしているサッカーの完成はまだ遠い。これからも厳しい試合が続くだろう。それでも、今季は長い中断期間もある。この敗戦を糧にして、少しずつでいいから成長していってほしい。(ぐん、)

【ボランティアグループ『グリーンズ』より】 大勢の方に快適に試合を観ていただくために。

草津戦ではおかげ様で満員御礼!! 3543人のお客さんに来場して頂きました。本当に有難うございました(ペコリ)今日の柏戦も沢山の皆さんに来場して頂けると思いますので、荷物等は座席の上に置かず足元に置いて一人でも多くのお客さんに座って貰えるようにご協力をお願いします。(シュナ)



本庄工業株式会社

http://www.honj-woodream.com/